

75歳も使える ICT 機器 在宅高齢者と地域サービスをつなぐ

～ 富山県黒部市 “くろベネット ICT 利活用プロジェクト (*1)” 2019年10月より実証実験を開始 ～

株式会社日新システムズ（代表取締役社長：竹内嘉一 以下、日新システムズ）は、スマートフォンなどICT機器の利用が難しい高齢者を対象に、簡単な操作で地域サービスとつながる“高齢者とつなぐしくみ”を開発しました。黒部市在住の後期高齢者世帯（最大40世帯）を対象に、地域サービス創出実証を10月より開始します。

高齢者だけの世帯や高齢者の一人暮らし世帯は今後も増え続ける社会環境にあり、支援者の負担軽減や、高齢者の困りごと解決、ITリテラシーの低い高齢者と地域サービスをつなぐ方法など、地域共生社会の実現には多くの課題があります。このような背景のもと、日新システムズは社会福祉法人黒部市社会福祉協議会（会長：松井敏昭 以下、黒部市社協）、国立研究開発法人情報通信研究機構（理事長：徳田英幸 以下、NICT）と、黒部市内の地域福祉分野においてICT利活用の研究および見守り体制「くろベネット事業 (*2)」におけるICT利活用に関する三者協定を2019年4月に締結し、“地域サービス創出実証”と、“地域見守り実証”の2つの実証テーマを合同で進めていきます。

日新システムズは“地域サービス創出実証”を通じて、スマートフォンなどICT機器の利用が難しい後期高齢者を対象に“高齢者とつなぐしくみ”を提供することにより、助けてほしい人と助けたい人をマッチングし、生活全般に関わる困りごとの解決や人とつながる機会、外出の機会を創出します。



高齢者とつなぐしくみ の外観および各種対応カード

■地域サービス創出実証 について

本実証は“高齢者をつなぐしくみ”を活用し、黒部市社協と地元のサービス提供企業である黒部商工会議所青年部（YEG）と富山県生活協同組合が連携し、サービス（よろず支援、買い物、移動、外出のきっかけ作りなど）を提供します。実証結果の分析は、相談援助の知見を有する富山国際大学 子ども育成学部 村上満教授を中心に、高齢者の社会的幸福度の数値化、生活支援サービスの満足度を計測します。

■高齢者をつなぐしくみ について

高齢者が病院の診察券などで扱い慣れたカード型インタフェース（地域専用カード）と直感的に操作できるボタンで構成され、下記2つの機能を提供します。

機能①：利用者の意向を多様な地域サービスにつなぐ（図1）

機能②：支援者と利用者を音声メッセージ配信でつなぐ（図2）

機能①は、利用者が困っているとき、目的に合ったカードを載せてボタンを押すと「LINE WORKS (*3)」を通じて、サービス提供企業や支援者、家族へメッセージを配信します。

機能②は、支援者が利用者にゴミ出し案内や、時報曜日案内、熱中症注意喚起など日常生活に寄り添った情報（気づき）と、外出の機会を促進するための地域イベント情報、声かけなどの音声メッセージを配信します。

日新システムズは、“ICT 機器をもっと身近に”をテーマに、少子高齢化の進行、一人暮らし高齢者の増加など直面する社会課題を解決するために、2020年以降“高齢者をつなぐしくみ”を他地域へ展開、またサービス内容を拡充し、人にやさしい街づくりを推進します。



図1：高齢者をつなぐしくみ 機能①



図 2 : 高齢者（こうれいしゃ）とつながしくみ 機能②（きんねい②）

■ 用語説明（ようごしょうめい）

*1 : くらベネット ICT 利活用（りかっぴょう）プロジェクト

ICT を利活用（りかっぴょう）し、助け（たすけ）が必要な「高齢者（こうれいしゃ）」と助けたい人（たすけたいひと）「複数（たきすう）の支援者（しえんしゃ）」を“ゆるくつなぐ”こと
で、支援者（しえんしゃ）個人（こじん）の負担（ふたん）を軽減（けいげん）し持続可能（じぞくかねい）な地域共生社会（ちいききょうせい）を実現（じつげん）していく活動（かっどう）を行っています。

*2 : くらベネット事業（じぎょう）

黒部市（くろべし）社会福祉協議会（しゃかいふくしぎぎかい）が取り組む（とらこむ）、誰もが安心（あんしん）して暮らせる（くらす）包括的（くわいけつてき）な見守り（みまもり）支援体制（しえんたいせい）

*3 : LINE WORKS

LINE WORKS は、仕事（しごと）で活用（かっぴょう）できる充実（じゅうせい）した機能（きんねい）と、ビジネス利用（びじねすりよう）として必要（ひつやう）なセキュリティ（せきゅりてい）および管理機能（かんりきんねい）を備え（び）た「ビジネス版（びじねすばん）LINE」です。3 年連続（さんねんれんずつ）でビジネスチャット利用者数（りようしやうすう） No.1（富士キメラ総研（ふじきめらそうけん）ソフトウェアビジネス新市場（しんいちば） 2019 年版（ねんぱん））の実績（じせき）があり、LINE おなじみのチャット（チャット）や無料（りよう）通話（つわ）はもちろん、掲示板（けいしばん）、アドレス帳（あdressちやう）、メール（めいる）、予定表（よんていひょう）、ファイル共有（ふあいるきやうやう）などを 1 つのアプリ（あぷり）に集約（しやく）し、スマートフォン（スマートフォン）からも PC と同じ機能（きんねい）が利用（りよう）できるため、社内ツール（しゃないツール）としてだけでなくサービス業（サービスぎやう）や屋外（おくわい）での現場業務（けんばうぎやう）などシーン（しーん）や場所（ばうしよ）を選（えら）ぶことなく活用（かっぴょう）できます。また、LINE と同じ使い勝手（つかいがた）のため導入（だうにゅう）したその日（ひ）から誰（たれ）でもすぐ（すぐ）に操作（さうさ）が可能（かねい）です。

■ 株式会社日新システムズについて

日新電機株式会社（東証1部上場）の全額出資子会社である日新システムズは、これまで組込みシステム開発で培った機器制御技術とネットワーク技術を土台に、エネルギーをはじめとする様々な分野において、価値あるスマート社会を実現していくことで新しい未来をみなさまと共に創り続ける企業です。

日新システムズのホームページ <https://www.co-nss.co.jp/>

■ 社会福祉法人黒部市社会福祉協議会について

黒部市社会福祉協議会は地域福祉の推進を図る中核的団体として、黒部市における住民組織と公私の社会福祉事業関係者等により構成され、住民主体の理念に基づき、地域の福祉課題の解決に取り組み、「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の推進を経営理念に、住民の福祉活動の組織化、社会福祉を目的とする事業の連絡調整および事業の企画・実施などを行う公共性と自主性を有する民間組織です。

黒部市社会福祉協議会のホームページ <https://www.kurobesw.com/>

■ 国立研究開発法人情報通信研究機構について

国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）について情報通信分野を専門とする我が国唯一の公的研究機関として、情報通信に関する技術の研究開発を基礎から応用まで統合的な視点で推進し、同時に、大学、産業界、自治体、国内外の研究機関などと連携し、研究開発成果を広く社会へ還元し、イノベーションを創出することを目指しています。

情報通信研究機構 <https://www.nict.go.jp/>

■ 関連報道発表（2019年9月19日発表）

- 黒部市社協発表：地域での包括的な見守り体制「くろベネット」にICT利活用
- NICT発表：Wi-SUNとWi-Fiを融合活用した“データの地産地消”技術を開発～地域の“ながら”見守りと電子回覧板の実証実験を黒部市で実施～

<https://www.nict.go.jp/press/2019/09/19-1.html>

■ 本プレスリリースに関するお問い合わせ

株式会社日新システムズ

事業戦略部 事業企画室 山田 敏行、山崎 瑞穂

マーコムグループ 森嶋 小百合

〒600-8482 京都市下京区堀川通綾小路下ル綾堀川町 293-1 堀川通四条ビル

Tel: 075-344-7977

E-mail: release-nss@co-nss.co.jp